

1・2 学年

進路通信

令和6年6月22日発行
第3号
上野高校進路指導部

入試で問いた い力 知識の量よりも、ものの本質を捉える力

筑波大学長 永田恭介氏（学研インタビュー抜粋）

永田筑波大学長は、「将来的には面接や小論文重視に2次試験を変更し、実社会においても答えが出ていない問題について論じる個性のある学生を選抜したい」と学研のインタビューで述べていました。今号は、高1・高2生にとって大学を見る視点や考える訓練ができていくかどうかを問うものになっていく入試について、永田学長が考えた問題から紐解いていきましょう。

問い「ここにロボットがあります。このロボットは自分でエネルギーを補充することができ、自分と同じコピーを生み出すことができます。このロボットは、機能の面から生物と言えるかどうか答えなさい。」

答え 高校生物の教科書の中に5箇所ほどに分散されて書かれています。ただ教科書を読むだけで、頭の中で本気で「生き物とは何か」を追究して考えなければ解けません。答えは、裏面に書いてあります。理由は自分で考えてみてください。教科書を全て読んで、同じ知識を持っているのに、解けない生徒は解けません。それは常に物の本質を見ようとしていないからです。問われている内容の本質は何だろうかと考えることが大切です。その姿勢が勉強の仕方や受験への取り組みに反映してきます。

上野高校では、大学に入ったその先までも考えてもらうため、1学年は進路行事の一貫として、「未来トーク」で職業についての講話を聞きました。2学年では、7月上旬に上野高校にて、大学の教授に模擬講義をしていただく進路行事が予定されています。

2 学年 探究の時間「上野学」とは？

2学年1学期は新クラスでのテーマ発表会からスタートしました。現在は、研究計画書を作り直し、メンターの先生との個人面談と並行して、テーマ変更、先行研究探しを行っています。2学期以降は調査（アンケート、インタビュー、文献調査など）・研究を進め、12月までに最大4500字の探究論文を執筆する予定です。3学期は3月の探究発表会に向けて、各自がポスターを作成します。探究発表会では、各クラス代表1名が体育館で1・2年生の前で口頭発表を行います。探究テーマを掘り下げることが、大学等で学びたい明確な進路を見つけることにも繋がります。探究論文の成果は推薦入試でアピールすることもできます。ぜひ好きなテーマを楽しみながら、探究してください。

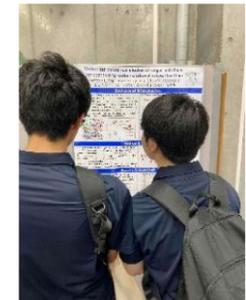
1年生はコンピテンシー向上に努め、2年での研究を円滑に行うための基礎固めを行っています。コンピテンシーとは、知識や技能を活用するための思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度のことを指すそうです。変化の激しい世界で、大学や企業でも耳にするようになりました。1年生は今後、先行研究の検索方法等を学んでいく予定です。

1年キャリア教育講座 「未来トーク」進路選択や職業観について

- ◆講演者経歴 京都大学院教育学研究科卒 → 国家公務員総合職
同志社大学理工学部卒 → 障害者福祉業界・教育業界
- ◆講演後の感想
 - ・講演者さんが挫折を経験しているのを知って安心した。新たな挑戦にも恐れず立ち向かいたい。
 - ・目標を持つことが大切。たくさん失敗しながらも頑張ろうと思った。大学の事を色々調べたい。
 - ・目標や夢が無い時点でもできることはあると実感した。多くの人や多くの出来事に関わり、これからの3年間で自分のやりたい事を見つきたい。
- ◆学部学科選びの視点、その後の仕事、就職活動の実態、社会で求められている人物像、企業のグローバル化など、多くの気づきがあったようです。ただ、難関大学をというのではなく、自分の目標のために各大学がどのような分野に強いのかを調べ比較検討したり、学力を向上させてさらに高みを目指す生徒が増えていくことを願っています。

未来の科学者のための

東大駒場リサーチキャンパス訪問

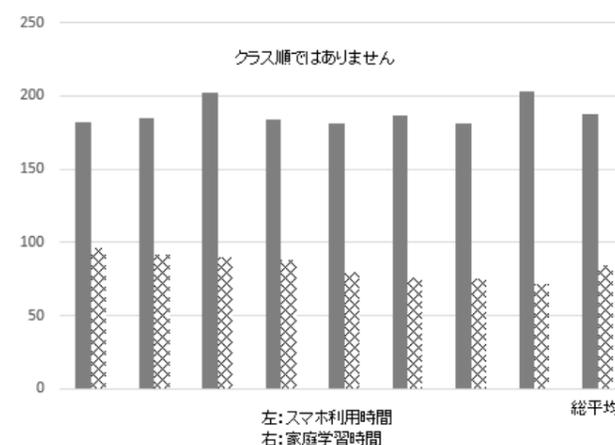


6月8日、東大駒場キャンパスで 健康・バイオ・医療 IT・AI ロボット・ナノ・マイクロ・環境・エネルギー・建築など

1年生の参加者は32名、思い思いの研究室を直接訪ね、展示してあるパネル等を見学しました。最先端の研究について、生徒自ら質問し、研究室の方からの説明を熱心に聞いていました。

見るだけでなく、触る、聞く、匂いを嗅ぐ、作るなど、興味のあるテーマを探しキャンパス内をリサーチしていました。写真の階段を上るロボットは、軽快な足音で前にいる人を感知してよけていました。

平日の勉強時間とスマホ利用時間のグラフ



2学年 進路アンケートから

授業以外での学習時間は、一般的に学年の数+1時間と言われています。1日のなかで無駄な時間（スマホ）、ちょっとした隙間時間は探せば出てくるはずで、平日・休日の1日の時間の使い方の詳細について全記録を取ることを強くお勧めします。1日の時間はすべての生徒に平等でも、使える時間は、やり方や集中力次第で多くもなり少くもなります。2年生の皆さん、もう3年間の折り返し地点です！！スマホの使い方を見直し、期末テストに向けて、計画的に学習時間を確保しましょう。

裏面は千葉大学の紹介です

大学訪問 千葉大学を訪れて

今回の大学訪問は千葉大学です。千葉大学は、首都圏では東大、横浜国立大、都立大、筑波大と並ぶ総合大学です。学部も国際教養学部・文学部・法政経学部・教育学部・理学部・工学部・園芸学部・医学部・薬学部・看護学部と素晴らしい充実ぶりです。76期は2名でしたが、75期生は6名、74期生は2名、73期生は4名と毎年合格者を出しています。

【千葉大学のアピールポイント】

① 自然があふれ、緑豊かな広大なキャンパス！

上野高校を出発して、上野から山手線で秋葉原に行き、そこで総武線に乗り換え西千葉駅に約1時間で到着しました。そこから徒歩1分で千葉大学西千葉キャンパスに到着します。上野高校から所要時間は70分。アクセスは楽でした。（ちなみに園芸学部は松戸キャンパス、医学部・薬学部・看護学部は亥鼻（いのはな）キャンパスですが、アクセスはさらに便利です）。



キャンパスに入ると緑豊かな広場に開放感のある美しい学習施設や研究施設が点在しています。広いので自転車で移動している学生もいるほどです。西千葉キャンパスの学食はビュッフェスタイルで、色々なものがバイキングで食べられます。

②千葉大は国際的、留学プログラムが充実！

千葉大は、想像以上に留学生がたくさんいて、国際的な大学だなという印象で

す。文科省が選んだグローバル人材を養成する11大学にも選ばれました。English House という留学生との交流施設があり、37ヶ国190以上の大学と協定を結んでいます。交換留学生として留学（12ヶ月以内）できる「海外派遣留学プログラム」や2～4週で実施する多様な「短期留学プログラム」が用意されていて、留学先でとった単位は千葉大学の単位として認められます。

③研究レベルは高く、就職は抜群！

千葉大学には様々な研究施設があり、「入学してみると世界的なレベルの研究が行われているのに驚きます！」とキャンパスを案内してくれた千葉大生は語っていました。「真面目に夢を持って頑張る仲間や研究に一途な先輩に刺激を受けるハイレベルな大学です」とも紹介していました。就職は文系が公務員や有名企業中心に抜群です。理系は就職も抜群ですが、6割の学生が大学院に進学し、その後専門的な知識を生かして企業等に研究職として就職する人が多いです。

【千葉大学に合格するには】

千葉大学一般入試の特徴は、共通テスト6教科8科目（文系は6教科9科目）の普通のパターンが基本になります。注意しなければならないのが、地歴公民で、「歴史総合・地理総合・公共」から2科目の設定がない学部があるので、HPなどで確認しましょう。

2次試験は理系が英語・数ⅠⅡⅢABC・理科2科目で、文系は英語・国語・数学ⅠⅡABCか地歴公民ですが、数学が必須の学部もあるので、確認が必要です。また学校推薦型入試・総合選抜型入試や特色のある入試も行っているの、調べてみるとチャンスが増えると思います。共通テストを受験するタイプの推薦入試がおすすです。「探究」の成果を生かせるといいですね。

表面の答え ×



先輩の合格体験記～千葉大学～

千葉大学国際教養学部合格 O・R君(76期)

【1・2年の頃】

1・2年生のころから、英語や地理が好きで、国際系の有名大学に行きたいと考えるようになりました。サッカー部の活動も忙しかったですが、2年の夏休みに大学のオープンキャンパスに行き、第一志望校を決定しました。塾には全く行っていなかったの、学校の勉強中心で、実力をつけることにしました。授業の予習・復習・定期テスト・模試と自分なりにベストを尽くすようにしました。そして模試ごとに目標を決めて勉強したので成績も上がっていき、2年の1月くらいから得意の英語を生かして、千葉大、上智大、そして東京外大に進学したいと思うようになりました。

【3年になって】

3年になって心がけたことは、「塾や予備校には行かず、授業・教科書・学校の教材を完璧にする」「自習室をフル活用する。友だちと励まし合って、楽しく受験生活を送る」「無理をするよりコンスタントに勉強時間をつくる」「英単語・古文単語等はすき間時間にくりかえして暗記」です。これを1年間通したら、受験勉強が楽しくなり、偏差値もぐんぐん伸びていきました。

【受験そして後輩へ一言】

受験が近づくと進路室や自習室にある赤本を毎日借りて、勉強していました。教科書、問題集や教材を完璧にすることと赤本を解くことが自分の受験でした。受験勉強をして成績が上がるのが面白く、全然勉強が嫌ではなかったです。後輩のみなさん、塾や予備校に頼る前に、まず上高の勉強を完璧にしましょう。

【志望大学は全て合格】

私立大は明治大や立教大だけでなく共テ利用入試で上智大に合格し、千葉大の前期試験も安心して臨むことができました。後期試験まで頑張り、東京外大にも合格することができました。東京外大は英語の先生からのアドバイスで受験しましたが、最終的に一番自分が学びたい内容が東京外大にあったので、進学することになりました。

千葉大学理学部数学科卒業 O・N君(70期) legend!

【1・2年の頃】

1年生の2学期まではそんなに成績もよくなかったです。ただ担任の先生や教科の先生から教科ごとの勉強法を聞いてメモを取り、その通りに勉強することでぐんぐん成績が伸びていきました。その中でも特に数学が大好きになりました。部活は天文地学部で、千葉大が第一志望でしたが、正直合格する自信はなくあこがれの大学でした。

2年になると数学を中心に勉強を自主的に進めていき、数Ⅱ・数Bに加えて、数Ⅲも独学で勉強したりする位とにかく数学が好きで、大学でも数学を専攻したい！と考えました。受験を意識したことで、勉強に意欲がでて模試の成績も急上昇していき、進学希望も東京工業大学に変えました。

【第一志望不合格のあと後期で千葉大合格】

2年から受験を意識していたので、第一志望の理系国立最難関の東京工業大の合格可能性判定もだいたいAかBでした。受験勉強にも自信がついてきて、自分のペースでどんどん進めていきました。東工大は数学・物理・化学の・英語の2次試験勝負なので、センター試験（現在の共通テスト）は重視されません。センターの勉強はいい加減でも大丈夫かなと思ったりしましたが、担任の先生や教科の先生からセンターをいい加減にする生徒は合格しないと言われ、センターも頑張ることにしました。受験に関しては、先生のアドバイスを素直に聞いた方が、絶対によいです。

センター（共通テスト）では、東工大受験のための点数が取れ、あとは東工大の2次試験のみでした。過去問は解けるし、自信があったのですが、自宅学習期間に長期のスランプになり、本番前先生方に励まされ、何とか気持ちを立て直して2次試験に臨みました。物理・化学・英語はこなせましたが、得意な数学で、予想外の苦手分野の問題ばかり出題され、頭が真っ白になってしまいました。結果は不合格で今までの努力は何だったのかと落ち込みましたが、また先生方に励まされ、後期の千葉大受験に気持ちを切り替えることができました。千葉大は共テの成績も重視されます。後期試験まで自習室で勉強し、楽な気持ちで受験し、すらすらと問題を解ける自分がいました。そして千葉大合格！！千葉大は1年の時のあこがれの大学です。1人で頑張っていたつもりでしたが、先生方や家族に色々助けられ、応援されて今まで頑張ってきたのだなと実感した瞬間でした。